３竹台高第 1630 号
令和４年３月 31 日

令和３年度　東京都立竹台高等学校　学校経営報告

東京都立竹台高等学校長
古屋　久男

１　今年度経営計画とその実現状況の概要

中期的目標と方策８点を掲げ、それに応じた今年度の目標と方策を細分化して示し、学校経営を行った。その実現状況について以下に概要を述べ、次節以降に数値目標の実現状況を報告する。

［取組状況の概要］

（１）学習指導の充実

令和４年度入学生からの新学習指導要領実施を見据え、各教科会や全教職員対象校内研修会等を実施することで、知見を深めつつある。但し、教科会が有効に機能している科ばかりではなく、「教科内及び教科間の機能的連携」の実現は途上にあると言わざるを得ない。一方、校内のデジタル化推進については急速に進展を見せており、感染症対策のため全校一斉オンライン授業が実施できるレベルに達した。SDGｓについては、新校舎に移転後、養護教諭が校内全トイレに使用上の注意喚起と関連付けた掲示を行う、学年の探究活動の一環とする等の地道な取り組みを行っている。学習習慣の確立については、結局通年の対応を迫られた感染症対策や、夏季休業中の校舎移転作業等、外的要因を乗り越える有効策をとることができず、課題を残している。在京外国人生徒への日本語指導は、感染症対策期間であっても極力実施するように指導者の協力を仰ぎ、実現している。

（２）進路指導の充実

生徒の希望進路実現、という視点から見れば、今年度は進路活動の結果、決定を見たにも関わらず、感染症流行による家庭の経済状況の悪化から急な変更を余儀なくされる例が複数件発生した。その一方で、得意分野を生かし難関大学合格を果たした生徒も出た。

東部学校経営支援センター特別指定校となったことで、教員の意識醸成につながっており、２年目の次年度は、生徒の第一希望内容自体を易き方向に流れさせないことに注力したい。生徒だけでなく保護者との連携を一層強化し、より充実した指導を行っていく。

（３）生活指導の充実

オンライン授業期間においては、規則正しい生活習慣の定着に難がある生徒を登校指導に切り替える等、全体指導では実現しにくい個に応じた柔軟な対応を取った。そのことで、教員が精神的余裕を持って対象生徒の指導に向かうことができ、生徒自身も学習への取り組みの真剣度が増す等、双方にメリットが生じた例があった。反面、教員の手も目も届かないため課題の提出に困難を生じた例もあり、学力スタンダードの数値結果に見られるように学力の定着度は低下したのではないかと思われるデメリットもあった。頭髪・服装指導においては、声をかければ直す、という状態を一掃すべく、生徒の自覚を促す丁寧な指導を継続していく必要がある。

学習習慣を支える「規律ある自由」の理解と生徒の自律的な取り組みの実現に向け、今後も指導の充実を図っていく。

（４）募集・広報活動の充実

感染症対策のため、今年度は、中学校等への直接訪問を遠慮したり、説明会参加者数を制限したり、という計画変更をせざるを得なかった。そのような状況下にあっても推薦及

び前期学力検査による選抜で後述の高倍率を記録できたのは、明らかに「新校舎効果」による倍率伸長、というメリットを享受したと言える。その効果が薄まらないうちに、「本校の特色」の更なる明確化に向け、議論を深めていくと共に、効果的な募集対策の在り方についても検討を重ねる必要がある。

（５）健康・安全の充実

新校舎に移転したことで、生徒の学習環境は著しく改善した。体力の向上については、感染防止の最中、取り組みに困難を感じているのが現実である。教育相談機能については、自校内に止まらず、ＹＳＷ要請派遣を活用する等、外部資源と積極的に連携を図ることができている。

新校舎施設に対し、地域住民からは自然災害発生時の防災拠点としての期待が高まっており、今年度実現できなかった関係諸機関や地域連携を今後強化していかなければならない。防災教育の一層の充実への機運は高まっており、令和４年度防災教育推進校指定を受け、具体的な体制構築に取り組む一助とする。

（６）特別活動・部活動

今年度は、校内デジタル化の推進により、文化祭においては感染症対策と両立する学校行事の在り方を工夫することができた。体育祭においても地域の理解と協力を得て、できることに全力を注ぎ実現することができた。他にも計画変更を余儀なくされたことは多々あるが、生徒は「集団や社会の一員としての自覚」を持ち、よく指導に従い行動していた。本来、「自主的・実践的な態度」の育成には、特別活動はもちろん、部活動を通して学年やクラスを越えた多くの人間関係構築の場面を経験させることが不可欠である。今後も、できないことに目を向けるのではなく、今できる新しいやり方を工夫することに生徒と教職員が一体となって取り組むことで、生徒の可能性の伸長を図る。

（７）地域連携の充実

【地域密着型教育活動推進校】として、積極的かつ具体的な取り組みがほとんどできないまま指定を終えることになったのは、大変残念である。それでも、限られた方法を模索する中で、社会福祉協議会との連携により生徒が地域の高齢者に向け年賀状を送る、という実践を複数年継続した。自筆の手紙を書くことで、生徒は社会常識や作法を身に付けることにつながり、高齢者からの返信をいただくことでうれしい成功体験ともなる。このような社会に直接つながる小さな実践であっても、自校の特色ある活動とすべく、今後も継続していくことで、地域との連携を深め、地域に理解され貢献できる学校づくりを行う。

（８）学校経営・組織体制の充実

企画調整会議を中心とした組織的学校経営の推進により、分掌主任間の自主的連携が以前に比して円滑になってきている。主幹会議を実働してミドル層の経営参画意識を醸成すると共に、経験の浅い中堅教員に校内分掌のリーダー的ポストを割り振ることで育成の機会を設定する、年次研修対象の若手教員に授業改善のための委員会運営を任せる、等の様々な仕掛けを行い、教職員全体の力量向上を促進していく。

また、育児や介護に携わりながら職務に当たる同僚とどのように連携するか工夫し、職務の偏りを少しでも減らす努力を重ねることで、「お互い様」の思いやりを持った全体のライフ・ワーク・バランスの充実に向け、今後も合理的・効率的業務改善を推進していく。

２　数値目標の実現状況と自己評価

※Ａ＝十分達成　Ｂ＝概ね達成　Ｃ＝達成できなかった

数値目標としては達成できなかった項目もあるが、その大半は感染症対策により大幅な教育課程の変更を迫られたことによるものであり、年度当初に公表した目標値を修正していないため、評語をＣとせざるをえないが、制限された中でも目標実現に尽力した。

≪学習面≫

・学力スタンダードに基づく学力調査得点　　58%以上（57.6%）49.6%　B
・自習室の開室（始業前・放課後）
150 日以上（前年度実績 16 日：感染症対策のため 2 学期定期考査前のみ実施）
19 日延べ利用者 216 人：感染症対策のため 2 学期定期考査前のみ実施）　C
・土曜講習の実施　　各学年 10 回以上（感染症対策のため未実施）C
・長期休業中講習
延べ 200 時間以上 500 名以上（夏季休業中のみ 12 講座　延べ 95 時間　228 名参加）
教科に関するもの　15 講座　延べ 67.5 時間・178 名 C
日本語教室集中講座　5 日間　延べ 10 時間・103 名 C
・生徒による授業評価における肯定的評価　　75%以上（73%）66.9%　B
・図書館貸出冊数　　3500 冊以上（3027 冊）3021 冊　B
・資格取得準 2 級以上　　25 名以上（23 名＝英検：15 名漢検：8 名）
英検 5 名　漢検 1 名　C

≪進路指導面≫

・4 年制大学進学率　　45%（43%）32%　C
・日東駒専以上現役合格　　10 名（4 名）5 名　C
・就職内定率　　100%（100%）100%　A
・進路未決定者　　10%未満（4%）20%　C

≪生活指導面≫

・年間遅刻 30 日以上　　1 年生　5%以下（4%）1%　A
2 学年　5%以下（35%）4.7%　A
3 学年　15%以下（19%）25%　C
・部活動加入率 1 学年　　75%（70%）69% B
・学校評価アンケート
地域の否定的評価　　30%未満（12%）16.7%　A
・体罰　　0 件（0 件）A

≪募集・広報活動面≫

・ホームページ年間更新回数　　200 回（78 回）202 回　B
・学校説明会　　4 回（4 回：304 名　コロナ対応により人数制限）
5 回　664 名 A
・個別相談会　　4 回（4 回：80 名　コロナ対応により人数制限）
6 回　183 名 A
・入試対策講座　　2 回実施（1 回：24 名、1 回はコロナ対応により
中止）1 回　26 名 C（コロナ対応により 1 回中止）
・中学校訪問　　150 校（60 校）　49 校　C
・塾訪問　　60 校（38 校）　38 校　C
・中進対第 1 志望調査　　1.20（1.08）　1.34　B
・入学者選抜応募倍率（学力検査）　　1.50（1.26）　1.47　B
・文化祭来校者数　　2000 名（未実施）公開なし
・「竹台通信」発行　　12 回（8 回）10 回　B
・相互授業見学各学期 1 回以上　　100%（1 回は実施が 66%）72%　B

≪地域連携面≫

・施設開放	20 団体 22 日（20 団体 15 日）17 団体 11 日

≪学校運営・組織体制面≫

・主幹会議	3 回以上（1 学期 1 回　2 学期 2 回　3 学期 1 回実施） 5 回（1 学期 0 回　2 学期 4 回　3 学期 1 回）B
・電子起案の推進	80%以上（80%）93% A
・センター契約	50%（35%）53%　　B
・定時外在校時間	80 時間越 0 名 (60 時間越：6 か月平均 7 名、2 か月平均 1 名)1 名　B

4　次年度以降の課題と対応策

（1）学習指導

基礎・基本の確実な学力の定着と新学習指導要領や大学入学共通テストにも対応した授業内容や授業方法を工夫していく。教科主任会及び教科会を定期的に開催し、教科内での指導内容や指導方法の共有化を図るとともに、教科間の横断的な連携を深め組織的な指導体制を構築し、意図的・計画的に学習指導をすすめていく。全学年朝学習の時間を設け学習習慣の定着を図る。始業前・放課後に自主学習室を開放し、授業時間以外での生徒の主体的な学習を推進する。

（2）進路指導

生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路選択することができるよう、入学時から系統的かつ組織的な指導が行えるよう、キャリア教育全体計画の充実を図る。

模擬試験・適性検査・個別面談等の実施により、個別課題を明確にさせ、自ら目標設定が構築できる進路指導を行う。

（3）生活指導

規律ある自由の理解に向け、全校集会・学年集会・ホームルーム等を活用し、遅刻・身だしなみ等の規範意識を高める。生徒会・部活動などの活動を通じて、生徒中心の自己啓発活動をサポートする。

（4）募集・広報活動

入学者選抜前期の応募倍率向上を目標とし、これまでの募集・広報活動の内容を見直し、本校の特色を明確化して積極的な情報発信を行っていく。

（5）健康・安全

新方コロナウイルス感染症対策への対応を堅持し、生徒の命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う。

学校不適応や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制を充実させ、生徒個々の状況の把握と一人一人に応じたきめ細かい指導をすすめていく。防災教育や安全指導を徹底し、災害に対する指導や事故の未然防止を図る。

（6）特別活動・部活動

学校への帰属意識を高められるよう、生徒会・委員会活動を活性化させる。2 大行事

である、「体育祭」「若竹祭（文化祭）」にて、生徒が主体的に取り組み、安全かつ達成感や自己肯定感を得られるような指導をすすめる。オリンピック・パラリンピック教育による「学校 2020 レガシー」として「豊かな国際感覚」の醸成をホームルーム等にて図る。

（７）地域連携の充実

地域行事への積極的参加により、地域に理解され・貢献できる学校を目指す。

（８）学校運営・組織

東京都教育委員会からの指定や支援を受け、教育活動の充実・発展に取り組むとともに、法令・規則等に基づく組織的な学校運営をさらにすすめ、引き続き諸課題の解決を図っていく。ライフ・ワーク・バランスの充実に向け、組織的な業務バランスを意識して、効率的・合理的な業務改善に取り組む。